

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価  
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

## 裾野市地域公共交通活性化協議会 (裾野市)

平成28年10月25日設置

令和5年2月7日 裾野市地域公共交通計画策定  
(計画期間：令和5年4月～令和10年3月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業  
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

# 1. 【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿

## ○対象地域の特性・概要

- ・人口：50,911人、世帯数20,717世帯（令和2年国勢調査）
- ・公共交通機関：JR御殿場線（裾野駅、岩波駅）、路線バス11路線、タクシー3社

➡収支率は路線バスが39.5%（全路線）

※令和5年度市民意識調査では、今後充実すべき公共サービスに対する重要度で、「バス路線や便数」の項目が20項目中第2位と高い

## 【計画の基本理念】

地域が一体となって守り育てる公共交通ネットワークの構築により、誰もが安心して移動できる持続可能な地域公共交通を実現する。

## 【計画の方針】

### ○方針1 公共交通のネットワークの再構築及び利便性の向上

- ・目標1：鉄道の利便性の向上
- ・目標2：乗継拠点の機能強化
- ・目標3：バス・タクシーのネットワーク再構築・利便性の向上
- ・目標4：バス・タクシーの安定的な運行の維持

### ○方針2 公共交通の認知度の向上及び利用促進による利用者の増加

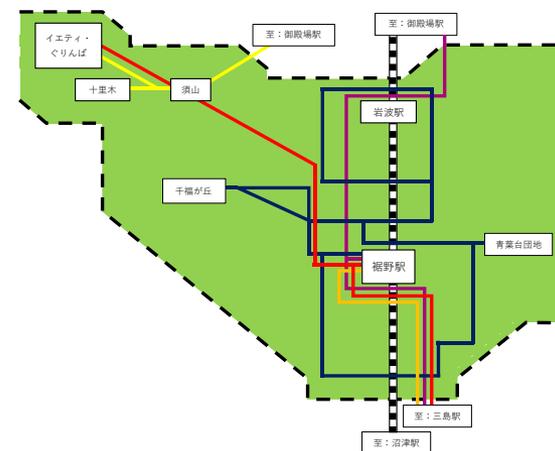
- ・目標5：公共交通に関する分かりやすい情報提供
- ・目標6：関係主体の総力による公共交通の利用促進

### ○方針3 地域と一体となった移動手段の充実

- ・目標7：交通弱者に対する移動支援策の充実
- ・目標8：地域に合った移動手段の検討・導入

【計画期間】令和5～9年度

## ■公共交通ネットワークの骨格形成イメージ



凡例	路線名	運行ルート	位置付け
1	須山線	三島駅～裾野駅～須山	幹線
2	十里木線	御殿場駅～須山～十里木	幹線
3	桜堤線	三島駅～三島駅北口～裾野駅	幹線
4	御殿場線	三島駅～裾野駅入口～御殿場駅	幹線
5	裾野市内循環線		支線
	青葉台・千福が丘ルート	裾野駅～青葉台団地～千福が丘	
	青葉台・岩波ルート	裾野駅～青葉台団地～岩波	

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
【事業1】 JR御殿場線利便性向上のための要望活動の実施	御殿場線利活用推進協議会として要望活動を実施	要望については、引き続き協議	利便性向上のために、継続して要望を続けるとともに、JRとの話し合いの場を増やす。
【事業3】 既存バス路線の再編、ルート変更の検討・実施	裾野市内循環線の再編を実施。詳細は次ページ。	令和6年10月から再編ルートで運行開始。	利用者との対話しながら進めてきた。公共交通を考える際に一緒に考えてもらえる利用者とのつながりができた。
バス利用者対象のアンケート調査	実際に1カ月間、対象路線全便に乗込んでアンケートを乗客へ手渡し。	1日3便×22日＝66便 配布数：253枚 回収：142枚	無作為抽出のアンケートだけでは埋もれてしまった意見を聞くことができた。
利用者との対話集会	実際にバスを利用している方のみを集めての意見交換。	開催回数：3回 参加者数：68名	市内循環線の再編について一緒に考えることで、満足度向上につながっていく。
【事業4】 地域旅客運送サービス継続事業の実施	地域旅客運送サービス継続事業の計画を一部変更。	裾野市内循環線の再編にあわせて、計画を変更した。	裾野市内循環線について、令和9年度以降も継続するためにも効率的な運行を検討する。
【事業5】 データ活用による利便性向上事業の実施	地元企業と協力して、バス停ごとの乗降客数を分析した。	市内循環線を再編する際に、市民への説明データとして活用した。	再編にあたり、無くなるバス停もあったが、データを示して説明することで、住民も納得しやすい。
【事業11】 高齢者バス・タクシー利用助成の推進	利便性向上のため、1回あたりの上限を廃止。	令和7年1月から、1回あたりの上限を廃止した。(これまで、1回の利用に200円分まで)	市民の公共交通を使うきっかけとなることを期待している。
【事業12】 多様なニーズに対応したタクシー活用方策の検討・実施	事業者主体で、乗り合いタクシーの実証運行を令和6年10月から令和7年3月まで実施。	現状では、利用は無かった。	バスが走っていない地域を対象に、スーパーおよび駅までの乗り合いタクシーを実施したが、利用にはつながっていない。

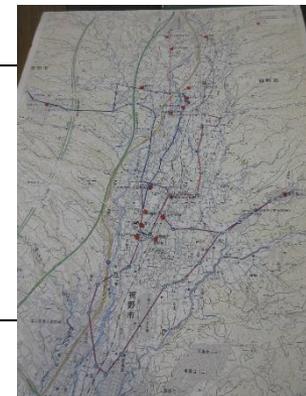
### 【事業3】既存バス路線の再編、ルート変更の検討・実施 サービス継続事業 裾野市内循環線の再編について

無差別の市民調査だけでは、実際の利用者の意見がうもれてしまう。  
再編するなら、バスに乗っている人に直接聞くべきだ。

令和5年6月  
裾野市内循環線バス全  
便に毎日乗込み調査  
1日3便×22日=66便  
253名に調査票配布

令和5年8月  
利用者と対話集会  
約30名が参加

令和5年9月～  
データ分析。  
再編案の検討。



令和5年12月  
再編案をもって、  
2回目の対話集会  
約20名が参加

令和6年4月  
再編案の一部を試験  
運行  
朝と夕方に便を追加

令和6年5月  
3回目の対話集会  
約20名が参加

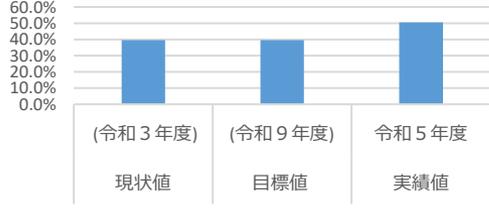
令和6年7月  
地域公共交通活性化  
協議会にて議論

令和6年10月  
再編ルートにて運行  
開始



### 3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

基本方針	目標	評価指標	現状値	目標値	実績値	考察
		(アウトプット指標)注	(令和3年度)	(令和9年度)	令和5年度	
方針1:公共交通のネットワークの再構築及び利便性の向上	目標1:鉄道の利便性の向上	①裾野駅・岩波駅乗車人数	126万人/年	126万人/年以上	141万人/年	コロナ禍からの回復により増加傾向にある
	目標2:乗継拠点の機能強化	②乗継のしやすさに対する市民満足度(「不満やや不満」の減少)	31.6%	30%以下		
	目標3:バス・タクシーのネットワーク再構築・利便性の向上	③市内路線バスの収支率	39.5%	39.5%以上	50.6%	御殿場線、桜堤線線などの路線バスの収支率が目標値を上回っていた。インバウンドの増加などが影響していると思われる。
		④バス路線や便数に対する市民満足度(普通以上)	44.2%	50%以上		
	目標4:バス・タクシー運行の維持	⑤公共交通に係る市の財政負担額	15,000千円/年(令和4年度)	15,000千円/年(維持)	10,577千円	高齢者バスタクシー利用助成券の利用が予算額を大幅に下回ったため。
方針2:公共交通の認知度の向上及び利用促進	目標5:公共交通に関する分かりやすい情報提供	⑥新たに作成する「地域公共交通マップ」の認知度	—	50%以上		
		⑦運行情報案内に対する市民満足度(「不満、やや不満」の減少)	33.0%(令和4年度)	30%以下		
	目標6:市民や関係主体の総力による公共交通の利用促進	⑧市内路線バスの利用者数	28.4万人/年	28.4万人/年以上	30.2万人	コロナ禍からの回復により増加傾向にある
方針3:地域と一体となった移動支援の充実	目標7:交通弱者に対する移動支援策の充実	⑨商業・観光施設等との連携による利用促進策の導入件数	0件	1件以上	0	裾野市内循環線の再編にあわせて、健康体操との連携を検討している。
		⑩移動支援策の導入(改善)件数	0件	1件以上	0	高齢者バスタクシー利用助成券の利用方法の変更を実施する。
	目標8:地域に合った移動手段の導入	⑪新たな公共交通システム導入件数	0件	1件以上	0	公共交通システムの導入にあたっては、まずは課題等の整理が必要となる。

計画の基本方針	現在の到達点	今後の取組方針								
<p>方針 1 公共交通のネットワークの再構築及び利便性の向上</p>	<p>市内路線バスの収支率</p>  <table border="1"> <caption>市内路線バスの収支率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>収支率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(令和3年度) 現状値</td> <td>約30%</td> </tr> <tr> <td>(令和9年度) 目標値</td> <td>約30%</td> </tr> <tr> <td>令和5年度 実績値</td> <td>約30%</td> </tr> </tbody> </table> <p>収支率は、目標値を達成しているが、市内循環線は約30%</p>	年度	収支率	(令和3年度) 現状値	約30%	(令和9年度) 目標値	約30%	令和5年度 実績値	約30%	<p>市内循環線は再編ルートで継続実施。 利用者と一緒に考えた再編であり、市民満足度については向上する見込み。</p>
年度	収支率									
(令和3年度) 現状値	約30%									
(令和9年度) 目標値	約30%									
令和5年度 実績値	約30%									
<p>方針 2 公共交通の認知度の向上及び利用促進による利用者の増加</p>	<p>市内路線バスの利用者数</p>  <table border="1"> <caption>市内路線バスの利用者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用者数 (万人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(令和3年度) 現状値</td> <td>約28.2</td> </tr> <tr> <td>(令和9年度) 目標値</td> <td>約28.2</td> </tr> <tr> <td>令和5年度 実績値</td> <td>約30.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>市内路線バスの利用者数は、コロナ禍からの回復もあり増加傾向</p>	年度	利用者数 (万人)	(令和3年度) 現状値	約28.2	(令和9年度) 目標値	約28.2	令和5年度 実績値	約30.2	<p>公共交通マップを作成予定。 施設との連携については、市内公共施設でのイベントと連携などをはじめており、商業施設などへ拡大していきたい。</p>
年度	利用者数 (万人)									
(令和3年度) 現状値	約28.2									
(令和9年度) 目標値	約28.2									
令和5年度 実績値	約30.2									
<p>方針 3 地域と一体となった移動手段の充実</p>	<p>新たな公共交通システムの導入：未実施。</p>	<p>ライドシェアなど新たな公共交通システムについて、導入後も継続的に利用されるシステムの調査を実施予定。</p>								

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	<p>令和6年10月に実施予定の裾野市内循環線の再編に向け、これまでの調査結果や今後実施予定の実証運行結果等を適切にフィードバックするとともに、対話集会などを活用し、需要に見合った路線やダイヤを設定することを期待します。</p>	<p>4月に実証運行便に乗り込み調査を行い、5月に対話集会を実施しました。            実際の利用者の意見を参考に路線、ダイヤを見直し再編を行いました。</p>	<p>フィーダー系統の裾野市内循環線について、補助期間が令和8年度末で終了する。            効率的な運行ルートを検討することで、補助期間終了後の継続運行を検討します。</p>
前々回			

## 6.計画・評価の推進体制

### ○事業実施状況の評価（年に1回実施）

事業の取組みや公共交通の利用実績などについて実施状況を毎年度評価します。

### ○目標達成度の評価（令和9年度）

計画の目標値との比較により、事業達成状況を検証します。

### 評価・計画見直しに関する裾野市地域公共交通活性化協議会スケジュール

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
前年度事業評価・反映			評価実施 意見反映			次年度 取組み 協議						
次年度バス運行計画										計画承認		
国庫補助			計画承認									補助金 支払い
計画見直し (R9年度)			現状整理		アンケート	素案協議	素案協議		パブコメ	計画承認		

### ・直近1年間の協議会

#### 令和6年度

第1回協議会 令和6年5月30日 主な議題：評価実施。市内循環線の再編について

第2回協議会 令和6年7月18日 主な議題：市内循環線の再編に伴う計画変更

第3回協議会 令和6年8月28日（書面開催）：市内循環線の再編によるフィーダー補助金変更申請

第4回協議会 令和6年10月31日 主な議題：高齢者バスタクシー助成券について

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月20日

協議会名: 裾野市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持改善事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
富士急シティバス株式会社	系統名:青葉台・千福が丘ルート	①バス・タクシー利用助成制度をより充実させるため、オンライン申請を実施 ②市内循環線の利便性向上を目的に、利用者に対し調査や対話集会を実施。	A ①70歳以上の市民を対象とした2,000円分のバス・タクシー利用助成券の交付。 ②市広報媒体、市内各施設や金融機関、医療機関等へのポスター、時刻表掲示配架等継続。市内循環バスに関する取組等をバス車内にも掲示。 ③循環線バス利用者との対話集会等を実施し、意見聴取によりニーズや課題等を整理。	B 目標①年間利用者数10,000人(R5.10~R6.9の期間で2系統を合わせた人数)を設定。 達成状況:9月末時点の利用者数10,903人のため達成。 目標②評価指標(アウトカム指標)「バス路線や便数」の満足度44.2%(普通以上)。目標値50%以上。 達成状況:令和5年度市民意識調査結果 38%のため未達成。 理由:バスをよく利用する70代の方の満足度が低かったため。	改善点①運行ルート、便数について再編を行った。 改善点②利用者を対象とした対話集会等を実施、ニーズや課題の整理を実施したことから、改善案や利用促進策について検討し、利便性の向上のため関係機関と調整を図る。
富士急シティバス株式会社	系統名:青葉台・岩波ルート	①バス・タクシー利用助成制度をより充実させるため、オンライン申請を実施 ②市内循環線の利便性向上を目的に、利用者に対し調査や対話集会を実施。	A ①70歳以上の市民を対象とした2,000円分のバス・タクシー利用助成券の交付。 ②市広報媒体、市内各施設や金融機関、医療機関等へのポスター、時刻表掲示配架等継続。市内循環バスに関する取組等をバス車内にも掲示。 ③循環線バス利用者との対話集会等を実施し、意見聴取によりニーズや課題等を整理。	B 目標①年間利用者数10,000人(R5.10~R6.9の期間で2系統を合わせた人数)を設定。 達成状況:9月末時点の利用者数10,903人のため達成。 目標②評価指標(アウトカム指標)「バス路線や便数」の満足度44.2%(普通以上)。目標値50%以上。 達成状況:令和5年度市民意識調査結果 38%のため未達成。 理由:バスをよく利用する70代の方の満足度が低かったため。	改善点①運行ルート、便数について再編を行った。 改善点②利用者を対象とした対話集会等を実施、ニーズや課題の整理を実施したことから、改善案や利用促進策について検討し、利便性の向上のため関係機関と調整を図る。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月20日

協議会名:	裾野市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持改善事業
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>裾野市地域公共交通計画の基本理念</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域が一体となって守り育てる公共交通ネットワークの構築により、誰もが安心して移動できる持続可能な地域公共交通を実現する。</li> </ul> <p>計画の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①公共交通のネットワークの再構築及び利便性の向上</li> <li>②公共交通の認知度の向上及び利用促進による利用者の増加</li> <li>③地域と一体となった移動手段の充実</li> </ol> <p>上記、3つの方針に基づき8つの目標を設定した。そのうちの1つが「バス・タクシーのネットワークの再構築・利便性の向上」である。これは、市民や来訪者の移動実態やニーズを捉え、最適なバス路線やルート、バス停位置、時刻表のあり方を検討することにより、既存のバス・タクシーネットワークの再構築を図るとともに、公共交通利用者の利便性の向上を目指すものである。</p> <p>この目標を達成するための事業として、「地域内フィーダー系統確保維持改善事業」がある。</p> <p>市民の生活交通の確保、継続を図ることを目的に地域内フィーダー系統確保維持改善事業(市内循環線)を実施する。</p>